



たくま
校訓『琢磨』に込めた願い

校長 井之上 良一

今回は、校訓『同学・共働・琢磨』の中の「琢磨」に込めた願いについて説明をさせていただきますと思います。(校訓の説明は今回が最終となります。)

申し上げるまでもなく「琢磨」とは、「切磋琢磨」の「琢磨」のことであり、その意味するところは、「志を同じくする者が、互いの欠点や誤りを直しあって向上を図ること」(新明解国語辞典)です。

学校生活や社会生活において「琢磨」するということは、集団や協同を前提としており、単に個人的な修養や鍛錬だけを意味していないということは自明のことですが、本校生徒が記した右に掲載した文章もそのことを如実に教えてくれます。

本校で行っている「朝のランニング」は、生徒たちの全身持久力に課題があることを踏まえて毎朝実施している活動です。基本的には個人的な鍛錬の場ですが、生徒たちがなぜ努力し、継続することができているのか、塩向さんの文章は仲間との「琢磨」がその大きな力になっているということを指摘しています。一人では、乗り越えることが難しいことでも支え合ったり、人の姿に学んだりして向き合えることの意味は決して小さくないと思います。所属する集団の中で相互に励まし合い、競い合い、向上を期すということ、つまり、「磨き合い高め合うこと」は、個人に対しても集団に対しても良い影響を及ぼすということを意味しているのではないのでしょうか。

さて、「琢磨」について考えるとき、仲間やライバルが琢磨してくれるという側面に加えて、今一つ大切な側面があるように思います。それはすなわち、向き合っている課題や苦難そのものが人を琢磨してくれるという側面です。このことを説明するために小説『泥流地帯』(三浦綾子作、令和4年映画化・公開予定)の一節を引用したいと思います。

私たちの朝ラン

2年 塩向史菜

走るのが好きな人もいれば、苦手な人もいるだろう。私は後者だ。


私たちの学校では、毎朝生徒全員が校庭を10周以上走っている。こうなるまでには、いくつかきっかけがあった。

まず目標を設定しやすくするため、体育で持久走のタイムトライアルを始めた。先生からは走る意義について、目標がある人、努力する人、素直な人は走り続けられ、他でも通用すると教わった。また、毎月頑張っている人を表彰し、学期末には特別な表彰もある。

昨年の私はそれほど努力しなかったが、みんなが頑張る姿を見て、負けたくないという気持ちが湧いた。仲間が存在が私を走らせ続けてくれている。切磋琢磨の力だ。

朝ランを続け、自信がつき、仲間の有り難さもわかった。やはり継続の意義は大きい。これからもコツコツ努力したい。

(「若い目」南日本新聞10月9日掲載)



歴史的な事実をもとにして描かれたこの小説は、1982年に新潮社から刊行され、表紙裏に内容が次のように紹介されています。

「大正15年5月、十勝岳大噴火。突然の火山爆発で、家も学校も恋も夢も泥流が一気に押し流してゆく……。上富良野の市街からさらに一里以上も奥に入った日進集落で、貧しさにも親の不在にも耐えて明るく誠実に生きている拓一、耕作兄弟の上にも、泥流は容赦なく襲いかかる。真面目に生きてても無意味なのか？懸命に生きる彼らの姿を通して、人生の試練の意味を問いかける感動の長編。」

北海道の荒野を開拓するために上富良野に入植した拓一、耕作兄弟の家族は、6人で生活しています。父親を幼い時に亡くし、母親は貧しい家族を助けるために旭川で髪結いの修行をしており不在。兄弟には他に姉と妹がおり、祖父母と共に暮らしています。

大正15年5月24日、十勝岳大噴火の被害はすさまじく、死者は144名、罹災戸数は355戸。火山泥流によって埋め尽くされた田畑はおびただしい数に上りました。祖父母や妹たちを家ごと泥流によって流された拓一は、家族を救出すべく泥流の中に自ら身を投じます。家族の救出はかなわなかったものの、拓一はかろうじて一命を取り止めます。その後、同じく助かった耕作と共に、静かに力強く復興に挑んでいきます。

三浦文学の研究者によると、この小説の主題は「苦難に向き合う」こと、あるいは「苦難は人を豊かにする」ということだそうです。そのことを最も象徴的に表しているのは次のくぐりです。

兄と共にこの未曾有の災難を生き延びた耕作は、寝床の中で拓一に向かって、誠実に生き続けることへの疑問を率直にぶつけます。

「なあ兄ちゃん。まじめに生きている者が、どうしてひどい目にあって死ぬんだべな」(耕作)

「わからんな、おれにも」(拓一)

「こんなむごたらしい死に方をするなんて……。まじめに生きていても、馬鹿臭いようなもんだな」(耕作)

「……。そうか、馬鹿臭いか。おれはな耕作、あのまま泥流の中でおれが死んだとしても、馬鹿臭かったとは思わんぞ。もう一度生まれ変わったとしても、おれはやっぱりまじめに生きるつもりだぞ」(拓一)



十勝岳遠景

苦難を前にして拓一がなぜこのように気高く、品性を失わずにいられるのか、率直に申し上げて分かりません。しかしながら、苦難がもたらす琢磨の力については、いくらか説明ができそうです。苦難がもたらす琢磨の力に類するものに、聖書に由来する「艱難汝(かんなんなんじ)を玉にす」という言葉があります。苦難が人を玉のように美しく磨き上げる、つまり、苦難は人を美しく豊かなものにしてくれるという意味です。

苦難や絶望の中にある時、人は自己を否定し、他者のみならず神仏の存在をも否定するなど、自暴自棄に陥り、もがき苦しむことがしばしばあります。しかし、苦難に背を向けず、船が舳先(へさき)を波に向けて正対するように正面から向き合い続ける中で、試練を経て、いつしか他者の存在の有難さ(感謝の念)や神仏の慈悲に生かされる喜び(畏敬の念)に気付く時が訪れます。苦難にさらされなければ、気付くことができなかったこと、言い換えれば、苦難を通して見えていなかったものがはっきりと意識できるようになることが人間にとっての成長であり、豊かさと言えるのではないのでしょうか。

第71回幼小中校区合同運動会 9/27

コロナ禍と熱中症対策で例年とは違う形で実施された運動会、しかし12人が一生懸命に力を発揮し、見ている人たちを感動させてくれました。

長距離走は新記録が5人も出ました。疲労がたまっている中で、最後の紅白対抗リレースタートでの全力のパフォーマンス。一気に会場を和ませることができました。思い出深い素晴らしい運動会になりました。



ひおき学フィールドワーク・弁当の日 10/2

日置市の史跡や自然などについて現地で学習する「ひおき学フィールドワーク」を実施しました。今回は東市来方面を巡り、市来鶴丸城跡や沈壽官窯、大田発電所等を訪れ、市観光ガイドの酒匂さんに説明をしていただきながら、学習を深めました。先人の功績を改めて知り、故郷への誇りをさらに高めることにつながりました。昼食は、日吉運動公園で自分で作った弁当を持参しての第1回「弁当の日」。それぞれテーマに沿って工夫を凝らしたおいしそうなお弁当を作っていました。2つの行事で大変中身の濃い充実した1日となりました。



地区新人総体 10/14

今回の新人総体では、7月の地区総体での悔しさをバネに、夏休みの後半から暑い中、一生懸命に練習に打ち込んできました。本番ではその成果を十分に発揮することができたと思います。

個人戦で2回戦進出をしたり、ベスト8入りを果たしたりと予想を上回る結果を残すことができました。今回の経験で自信をつけたと同時に、更に努力が必要な面も理解できたと思います。今後の活動に生かし、更に飛躍できることを期待しています。

【結果】 男子ソフトテニス競技 団体戦(神村学園との合同チーム) 1回戦敗退
個人戦 []ペア 2回戦進出
女子ソフトテニス競技 団体戦 1回戦敗退
個人戦 []ペア ベスト8進出

日 曜	11月の主な行事予定
2 月	地域が育む「かごしまの教育」県民週間(～7日) 「学校を見に行こう」週間(～6日) 文化祭 第2回学校評議員会 おひさまあいさつの日
3 火	(祝) 文化の日
4 水	第4回PTA評議員会
5 木	3年生実力テスト
7 土	校区グラウンドゴルフ大会
10 火	「チェスト行けひおきっ子II」事業 研究指定研究公開(於:土橋小)
11 水	巡回図書
12 木	部活動停止期間(～18日)
13 金	保健タイム・家庭教育学級
14 土	土曜授業(小中合同地域ふれあい活動)
17 火	期末テスト(～19日)
19 木	SC来校 教育相談(1・3年) カウンセリング体験(2年)
20 金	授業参観 第2回学校保健委員会 学級PTA
23 月	(祝) 勤労感謝の日
24 火	巡回図書

※11月2日からの県民週間は、是非学校にお越しください。
(詳細は各自治会公民館に掲示したポスターを御覧ください。)